

手嶋康さんの思い出

今年の7月20日、「竜王」の手嶋康さんがアルバムを閉じられました。

7月16日全日展の初日、会場でブースの前を通過された時に「入場券ありがとう！」
「あっどうも」と言葉を交わしたのが最後となりました。もっとも日フィラを継承して丸8年近くになりますが、プライベートな取り引きも無く、時折オークションに入札をいただく位でご挨拶程度のお付き合いでした。

しかしながら思い起こせば二十数年前、私が収集家として“駆け出し”の頃（結局駆け出しで終わりましたが）一度だけ“取り引き”があった事を思い出しました。

日フィラのオークションで竜五百文黄緑が1枚出品されていて、僅かな薄みがありました
が1枚位入手したいと思って最低値+ α で入札した処、運よく落札できました。

手に入れてほどなく満足感に浸っていた頃、前店主の西岡氏より一通の手紙を見せられ
「返事はどちらでもいいと思いますが、一応渡しておきます」とのこと。内容は、この切手は私（手嶋さん）にとって価値ある1枚であり、代替品を渡すのでこの切手を私に譲ってくれという事でした。西岡氏とのやり取りで「この方は会員さんですよ？」「そうです」「入札されなかったのですか？」「入札はありました」「私の札はそれ程強くないのになあ、まあわざわざ応じる必要ありませんよね？」「そうですね、問題ありません。」という感じでした。

その後、話ネタにこの事を高橋スタンプ高橋さんにした処、「その方は竜切手の第一人者です。この機会に収集家としてご挨拶されても良いかもしれません」という事でした。

ちょっと思い直して交換に応じる御手紙を書いた処、正に同程度の黄緑1枚と“おまけ”に四十八文1枚が同封されてきました。

“取り引き”はこの一回のみで、その後その切手は見事なりコンストラクション完成の最後の1枚として発表されていました。(POS39)

御本人は私の事など憶えておられないと思っていましたが一度お聞きしてみたかったです。

金坂忠彦



画像出典：「日本切手名鑑 第2巻 手彫」（1990）fig.19